

# 道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修者



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修者

カリキュラム・マネジメントで  
道徳教育の充実を！



道徳授業を  
“子どもとつくる”とは?!

道徳科がスタートして、もうすぐ3年目を迎えます。同時に、新学習指導要領に基づいた学習の完全実施が始まります。新しい教科書を活用して、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」ができる学習に取り組みたいものです。

新学習指導要領のキーワードの一つに「カリキュラム・マネジメント」があります。道徳教育においては、他教科や行事等と道徳科を効果的に結びつけたカリキュラム・マネジメントで効果的な教育を進めたいですね。「新たなプログラムを創る」というよりも、各学年で実施している行事や体験活動と、各教科での指導内容と道徳科を関連づけて学習するプランを、目的やねらいを明確にして「再構築する」とよいでしょう。これまでも実施してきたことを道徳教育の目標を意識して、道徳科を核としたカリキュラム・マネジメントでプランを立て直してください。道徳科の授業と体験活動や他教科での学びが結びつき、より効果的な「腑に落ちる」学びとなるでしょう。

教師は、ねらいをもってそれぞれの授業を構想しています。しかし、「価値注入型」といわれるスタイルになりがちで、教師の思惑が先走る傾向があるのではないのでしょうか。こちらは一生懸命伝えているにもかかわらず、子どもたちにとってはピンと来なかったり、分かりきったことでちょっと冷めてしまったり……。

かねてより「子どもたちとつくる授業展開」を提案していますが、それはまさに、学びの主役である彼らの思考に寄り添いながら、教師側の思いとすり合わせていく作業をするということです。これは決して、子どもたち任せということではありません。

このような授業は、レールに乗かって展開するようなものではないので、その場での臨機応変な対応力が必要となります。子どもも教師も頭をフル回転させて話し合いに臨み、「終わったときにはくたくたになっているけど、楽しかった」(3年生の子どもの感想)という世界です。こういう世界は確実にあります。その世界へ飛び込むかどうか、道徳教科化に当たって、私たちにその覚悟が問われているのかもしれません。